

庄原のクジラ化石が世界登録

生涯学習課比和生涯学習係 ☎0824-85-3005



クジラの化石

比和自然科学博物館に保存しているクジラ類の化石のうち、1種が新属新種、2種が新種であることが、古生物学者の大塚裕之・鹿児島大名誉教授らの研究で確認されました。2月発行の比和博物館研究報告に掲載し、アメリカの Smithsonian 博物館のクジラ化石データベースにも登録されます。

新属新種とわかった頭部化石は、庄原市内を流れる西城川河床などの備北層群と呼ばれる地層で見つかったヒゲクジラ類ケトテリウム科のもので、収集に携わった故広瀬繁登氏にちなみ、ヒバクジラ（和名）属ヒロセヒバクジラと命名されました。ほかの2種もディオロケトウス属の新種でシヨウバラクジラ、パリエトバラエナ属の新種でヤマオカクジラと命名されました。

大塚名誉教授は「クジラ類の進化をたどるうえで非常に重要な発見で、この地域は種類、出土量など世界的にも有数」と評価しています。

博物館では、化石の分類、整理をすすめ、7月下旬から一般公開する予定です。

木質チップボイラーが稼働

政策推進課 ☎0824-73-1113

東城町の温泉施設「リフレッシュハウス東城」に、木質チップボイラーが設置されました。このボイラーは、木質バイオマス関連事業の実施について、市と協定を締結している（株）ジュオンが設置したものです。灯油ボイラーからの転換によって、化石燃料の使用量削減と木質バイオマスエネルギーの有効活用を推進し、二酸化炭素の排出削減と木材関連産業の活性化および森林環境の保全を図ることを目的としています。

4月11日には火入れ式が行われ、多くの参加者が見守る中で、ボイラーの稼働が始まりました。



関係者が出席した「火入れ式」

◆リフレッシュハウス東城（☎08477-2-1288）

- ・温泉 10時～21時
- ・プール、トレーニングジム 13時～20時
- ※定休日 水曜日

地球温暖化対策実行計画を策定

環境衛生課環境衛生係 ☎0824-72-1398

地球温暖化対策の取り組みとして、市の業務から発生する温室効果ガスを削減するため、市は地球温暖化対策実行計画を策定しました。

この計画は、本年度から平成24年度までの5年間に、市役所が行うさまざまな省エネ活動をまとめたもので、温室効果ガス排出量の6%削減（対平成18年度比）を目指します。

主な取り組みとして、公用車のアイドリングストップ・エコドライブや、施設空調・照明設備の管理などを徹底します。また、イベントなどでは、できる限り使い捨て用品の使用を控えるようにします。

この計画は、市のホームページに掲載していますので、ご覧ください。



作成した計画書

山内地区農業集落排水事業が完成

下水道課管理係 ☎0824731175



国内最大級の農業集落排水施設

山内地区の下水道整備となる農業集落排水事業が3月末で完成し、施設の供用が始まりました。この事業は、し尿や生活排水を集めて処理するもので、山内地区の生活・自然環境の保全と向上を目的に、市内で5番

目の農業集落排水事業として取り組みました。総事業費は70億7,500万円。平成11年の事業採択から9年間にわたり工事を進め、本年度施工の一部浄化槽工事を残し、完成しました。処理人口は4,310人、日平均汚水量は1,164m<sup>3</sup>を計画。管路整備延長97,247m、中継ポンプ59箇所は、国内でも最大級の農業集落排水施設となります。処理場敷地内では、発生する余剰汚泥を有効活用するため、汚泥の肥料化設備を備えています。これにより、単に生活排水を処理するだけでなく、汚泥を発酵させ肥料化することができ、農地へ還元するためのシステムとして期待されています。

土づくり講演会で資源循環型農業を推進

農林振興課農業振興係 ☎0824731132

庄原市堆肥利用促進研究会が3月21日、食彩館しょばら「ゆめさくら」で、土づくり講演会を開催しました。

国内で販売する農産物などに「有機」と表示するために必要な有機JAS制度の講演を通じて、家畜堆肥を利用した資源循環型農業の推進および庄原産農産物のブランド化につなげるのが狙い。市内の農業者など53人が参加しました。

講演会では、中国四国農政局広島農政事務所が「有機JAS制度と認定手順について」と題して、制度の概要を説明。また、実際に有機JAS制度の認定を受け、農産物の生産に取り組んでいる神石高原町の藤井仁士さんが「有機JAS認定制度に取り組みの経過、土づくりの難しさ、化学肥料の怖さなど、実践を通じて得た思いを発表しました。市では、土壌分析・堆肥利用の補助制度を設けるなど、引き続き家畜堆肥を利用した土づくりによる農産物のブランド化に向け取り組みを進めます。



会場がいっぱいになるほどの人気

「ホットライン西城」が全国大会で優秀賞

西城支所地域振興室 ☎0824822121



オフトークの録音をする担当の増永高子さん

西城のオフトーク通信「ホットライン西城」が、平成19年度オフトーク通信番組コンテスト（NPO法人地域情報推進協議会主催）の企画番組部門で、優秀賞を受賞しました。

受賞した企画番組は、毎月1回西城産の農産物の魅力を伝えるコーナー「里山の旬だより」。西城町のベジタブル&フルーツマイスターの加藤寛子さんが、地元産の旬の野菜や果物を取り上げ、栄養や簡単な食べ方などを伝えています。

1月は、寒じめほうれん草のレシピを募集し、優秀作品のレシピをパンフレットにして、地元商店で配布するなど、番組を通じて地産地消や、食と農のつながりなどを呼びかけています。

花のもてなしで市街地へ集客

商工観光課定住推進係 ☎0824731178

「花の坂道プランターづくり講習会」が4月13日、国営備北丘陵公園北入口駐車場で行われました。

これは、公園北入口のオープンに伴い、庄原市街地への集客を図るため、市の「まち」は「公園」リーディング事業の一環として、しょうばら観光キャンペーン実行委員会が開催したものです。

㈱グリーンウインズさんとやまの齊木義伸業務課長が講師で、土の選び方から植付けの際の注意点などを指導。約55人の参加者は、200鉢のプランターに色とりどりの花を植え付けました。

作業終了後、参加者は完成間近の「エントランスセンター国兼」やスイセンガーデンを見学。「花のプランターづくり」のノウハウなど、初めて聞く内容もあり、とても勉強になった」などと話していました。

完成したプランターは、北入口から続く国道432号線の坂道に、6月いっぱい設置します。



完成間近のエントランスセンター国兼の前で楽しく作業

西城・高野学校給食共同調理場がスタート

教育総務課学校管理係 ☎0824731186



給食が始まった西城中学校

西城中学校、西城小学校、美古登小学校の給食を賄う西城学校給食共同調理場が、西城町入江に完成し、4月7日から本格的に運営を開始しました。

この調理場では、1日約280食を調理し、各学校へ配送しています。

初日の献立はカレーライスとスプリングサラダ、牛乳で、4月は「入学お祝い献立」や「お花見献立」・「食育の日献立」などの特別メニューが実施されました。

これまで給食がなかった西城中学校の生徒は「配膳が大変でしたが、温かくておいしい」と話していました。

高野学校給食共同調理場は、高野中学校の給食調理場の老朽化に伴い、隣接する高野小学校の給食調理場を改修して建設。4月から、両校合わせて1日約215食の調理が始まりました。

口和町介護予防講演会

口和支所市民生活室 ☎0824872114

3月12日と21日、口和町で介護予防講演会を開催し、延べ約100人が参加しました。

第1回は口和老人福祉センターで国原医院の国原玄一郎先生が「加齢と病気」、第2回はヒューマンライツで口和診療所の渡辺将史先生が「高齢者の病気について」と題し、講演しました。

二人は、「高齢者の病死の多くを占める血管疾患は高血圧が原因。60歳以上の約6割が高血圧といわれ、脳梗塞の発生率も6〜8倍高い。寝たきりを防ぐためには、高血圧の治療が大切」と説明。また、「認知症はアルツハイマー型と脳血管性で8割以上を占める。脳血管性は高血圧が関与しており、予防が可能。歳のせいと放っておかず、気になつたら早く相談し、治療していくことが大切」と、高血圧の危険性を指摘しながら、どのように介護予防し、どうしたら元気に過ごせるかを熱心に訴えました。



講演する国原先生